



WHA GROUP NEWS

WHAグループニュース <http://www.wha-group.com>

vol.30

WHAグループがプアック・デー地区に「Clean Water for Planet」プログラムの一環として廃水管理・処理プロジェクトを引き渡す



バンコク、2019年5月24日 WHAコーポレーション株式会社（WHAグループ）は、タイのプアック・デー地区の廃水管理・処理プロジェクトが完成し、自治体への引き渡しが行われたことを発表しました。この新施設はプアック・デーにあるイースタン・シー

ボード工業団地（ラヨーン）（E S I E）の近くに位置し、1日あたり400立方メートルの処理能力を備えており、植物と微生物の自然の力を利用した技術である人工湿地で構成されています。新しい廃水管理・処理システム設置の発端となったのは、偉大なプミポン・アドゥンヤデート前国王陛下が推進した、廃水を生物学的に処理する取り組みとプロジェクトでした。この施設は水質を改善するためのWHAのCSRプログラム、「Clean Water for Planet」の一環として開発されました。このプロジェクトは体系的な廃水管理を導入することの重要性に、近隣の地域社会にプラスの変化を生み出すことを目的としていることを説明しました。同会長兼グループCEOは次のように述べています。「このプアック・デー地区とのパイ

ロット・プロジェクトは環境だけでなく、地域住民の教育、健康と幸福に関する弊社の関心が組み合わされたものです。WHAグループは自社の工業団地周辺に健康的で力強い地域社会を構築することを目的として一連の活動を開始し、認識向上プログラムを実施して地域住民と直接的に接することによってコミットメントを示します。また、タイランド4・0政策の目標達成にも全力を尽くします。」

同プロジェクト完了の発表にあたり、WHAインダストリアル・ディベロップメント株式会社のウィット・ジャティカーンサント工業・海外担当最高執行責任者は次のようにコメントしています。「このプロジェクトは東部経済回廊（EEC）における弊社工業団地近隣の地域社会とWHAグループの結び付きを反映するものであるため、私たちはこのプロジェクトを誇りに思っています。弊社は最高の工業団地の施設とサービスを提供し、環境を保護して維持することに情熱を注いでいます。責任ある姿勢が伴わなければ、成長と進歩は実現できません。」このプロジェクトのために、WHAは人工湿地の建設と資金調達を担いました。施設が完成し



完全に統合された物流、工業団地、公共インフラサービスと電力、およびデジタル・プラットフォーム分野におけるタイのリーダー企業、WHAグループの子会社であるWHAインダストリアル・ディベロップメント株式会社は、同グループがタイで運営する10か所目の工業団地であるWHAイースタン・シーボード工業団地3（WHA E S I E 3）を開業したことを明らかにしました。EECに位置し、効率的なインフラストラクチャーと世界水準の工業向け

WHAグループは本日、中国のChengshanグループ傘下のPrinx Chengshan Tire（タイランド）株式会社との間で、WHA E S I E 3の1件目の契約を締結しました。この契約により、WHA E S I E

WHA E S I E 3は、様々な分野の投資家にご利用いただくための準備が整いました。特に次世代自動車、ロボティクスとオートメーション、航空、物流などをターゲット産業に定めています。

WHA E S I E 3は、Prinx Chengshan Tireが事業を拡大し、国際的な競争力を高めるための理想的な選択です。」

WHA E S I E 3は、Prinx Chengshan Tireが事業を拡大し、国際的な競争力を高めるための理想的な選択です。」

WHA E S I E 3は、Prinx Chengshan Tireが事業を拡大し、国際的な競争力を高めるための理想的な選択です。」



写真は、WHAコーポレーション株式会社のジャリー・ボン・ジャルコンサクン会長兼グループCEO（中央）、WHAインダストリアル・ディベロップメント株式会社のデビッド・ナードン工業・国際担当グループ・エグゼクティブ（左から3人目）、WHAインダストリアル・ディベロップメント株式会社のウィット・ジャティカーンサント工業・国際担当最高執行責任者（左から2人目）、WHAインダストリアル・ディベロップメント株式会社のラッダ・ロジャナウィライウット工業団地顧客開発担当副社長（左端）、Chengshanグループ取締役会会長のMr. Che Hongzhi（右から3人目）、Prinx Chengshan社セネラルマネージャーのMr. Che Baozhen（右から2人目）、中国銀行（タイ）のCEO兼別責任者のMr. Li Feng（右端）

3の工業用地280ライ（44・80ヘクタール）にタイおよび東南アジアにおける同社初の工場が建設されます。新工場は2020年半ばまでに稼働開始する予定です。Prinx Chengshan社は中国に本拠を置くタイヤメーカーで、2018年10月に香港証券取引所（SEHK）に上場しました。同社はこの地域で初めてのタイヤ工場建設地としてタイのEECにあるWHA E S I E 3を選びました。Prinx Chengshan社はこのプロジェクトの第1段階としてインフラストラクチャーと生産ラインの建設に101億バーツ（3億米ドル）の投資を行います。年間生産能力は乗用車用ラジアルタイヤ（PCR）が400万本、トラック用ラジアルタイヤ（TBR）が80万本です。同工場の稼働開始時に必要となる労働者数は1,200人で、年間生産能力がPCR 1,000万本、TBR 200万本に引き上げられた後は、2,000人を超える見込みです。

WHA E S I E 3は、Prinx Chengshan Tireが事業を拡大し、国際的な競争力を高めるための理想的な選択です。」

WHA E S I E 3は、Prinx Chengshan Tireが事業を拡大し、国際的な競争力を高めるための理想的な選択です。」

WHA E S I E 3は、Prinx Chengshan Tireが事業を拡大し、国際的な競争力を高めるための理想的な選択です。」

WHAグループがタイで10か所目の工業団地を開業 WHAイースタン・シーボード工業団地3 最初の入居企業は中国のPrinx Chengshan Tire社

工業団地、WHA E S I E 3の開業という節目にあたり、最初の入居企業としてPrinx Chengshan Tire（タイランド）社を迎えることを誇りに思います。タイにおけるPrinx Chengshan社の投資は、タイの自動車産業が前進するための重要な一歩であり、海外の投資家にとってEECが魅力的であることの証です。近日中にさらに多数の企業が入居する見込みで、今後5年間のWHA E S I E 3への投資額は1,400億バーツ（44億1,000万米ドル）と見積もられています。」

WHA E S I E 3は、Prinx Chengshan Tireが事業を拡大し、国際的な競争力を高めるための理想的な選択です。」

WHA E S I E 3は、Prinx Chengshan Tireが事業を拡大し、国際的な競争力を高めるための理想的な選択です。」

WHA E S I E 3は、Prinx Chengshan Tireが事業を拡大し、国際的な競争力を高めるための理想的な選択です。」

WHA インダストリアルゾーン1 - ゲアン

初期の開発エリア145ヘクタールが現在、投資家に提供可能となつています。投資家は経済区の特別な投資奨励策と投資家向けサポートを活用できます。この3,200ヘクタールのプロジェクトが完成すると、ベトナム中央北部で最大規模かつ世界水準の工業区になります。



WHA インダストリアルゾーン1はゲアンに本拠を置くWHAグループにとってベトナムで初めての工業区投資であり、ベトナムと東南アジア地域に対するWHAグループのコミットメントを明確に示すものです。

また、ゲアン省はビン市周辺にビン国際空港、3つの海港、南部と北部を結ぶ鉄道網があり、8本の国道や高速道路が省内を走っています。インフラに恵まれていて、さらに、2021年に予定されているハノイとビン市を結ぶ自動車道路の完成により、同省の接続性は一層高まります。ベトナム政府と省当局の献身的な支援により、ゲアンはビジネス、教育、製造、輸送および物流の総合的なハブとなり、大手製造企業と投資家が国の発展に一層貢献するための一等地となっています。

高速道路1Aに隣接するドン・ナム経済区内という戦略的立地条件を備えたWHA インダストリアルゾーン1はゲアンはベトナム中央北部で最大規模の工業区になり、新たな世界水準の製造・配送拠点として国内市場と海外市場にサービスを提供します。

このことが、WHAグループがゲアンに投資し、工業区を建設することを決めた理由です。WHA インダストリアルゾーン1はゲアンに優れた設計のインフラストラクチャーと水道などの公共インフラサービスを提供しています。これには工業用水、廃水処理、電力供給、最新の通信システムのほか、雨水排水と洪水防止が含まれます。また、WHA インダストリアルゾーンの専門的な運営・管理チームによる環境監視サービスも提供されます。



WHA コーポレーション株式会社のジェラリー・ボーン・ジャルン会長兼グループCEO

WHA インダストリアルゾーン1はゲアンに本拠を置くWHAグループにとってベトナムで初めての工業区投資であり、ベトナムと東南アジア地域に対するWHAグループのコミットメントを明確に示すものです。

WHA インダストリアルゾーン1はゲアンに本拠を置くWHAグループにとってベトナムで初めての工業区投資であり、ベトナムと東南アジア地域に対するWHAグループのコミットメントを明確に示すものです。

WHA インダストリアルゾーン1はゲアンに本拠を置くWHAグループにとってベトナムで初めての工業区投資であり、ベトナムと東南アジア地域に対するWHAグループのコミットメントを明確に示すものです。

WHA インダストリアルゾーン1はゲアンに本拠を置くWHAグループにとってベトナムで初めての工業区投資であり、ベトナムと東南アジア地域に対するWHAグループのコミットメントを明確に示すものです。

WHA インダストリアルゾーン1はゲアンに本拠を置くWHAグループにとってベトナムで初めての工業区投資であり、ベトナムと東南アジア地域に対するWHAグループのコミットメントを明確に示すものです。

WHA インダストリアルゾーン1はゲアンに本拠を置くWHAグループにとってベトナムで初めての工業区投資であり、ベトナムと東南アジア地域に対するWHAグループのコミットメントを明確に示すものです。

WHAグループは1988年の設立以来、自動車、石油化学、エレクトロニクス、消費者製品およびその他の輸出産業のクラスターを形成し、発展させる上で有益な役割を果たしてきました。フォード、GM、いすゞ、マツダ、MG、BYD、スズキなどの国際的な自動車メーカーが世界のトップOEM部品サプライヤー32社を含む自動車部品メーカーと共に、タイの製造拠点としてWHA工業団地を選択しています。

WHAグループは1988年の設立以来、自動車、石油化学、エレクトロニクス、消費者製品およびその他の輸出産業のクラスターを形成し、発展させる上で有益な役割を果たしてきました。フォード、GM、いすゞ、マツダ、MG、BYD、スズキなどの国際的な自動車メーカーが世界のトップOEM部品サプライヤー32社を含む自動車部品メーカーと共に、タイの製造拠点としてWHA工業団地を選択しています。

WHAグループは1988年の設立以来、自動車、石油化学、エレクトロニクス、消費者製品およびその他の輸出産業のクラスターを形成し、発展させる上で有益な役割を果たしてきました。フォード、GM、いすゞ、マツダ、MG、BYD、スズキなどの国際的な自動車メーカーが世界のトップOEM部品サプライヤー32社を含む自動車部品メーカーと共に、タイの製造拠点としてWHA工業団地を選択しています。

WHAグループは1988年の設立以来、自動車、石油化学、エレクトロニクス、消費者製品およびその他の輸出産業のクラスターを形成し、発展させる上で有益な役割を果たしてきました。フォード、GM、いすゞ、マツダ、MG、BYD、スズキなどの国際的な自動車メーカーが世界のトップOEM部品サプライヤー32社を含む自動車部品メーカーと共に、タイの製造拠点としてWHA工業団地を選択しています。

WHAグループは1988年の設立以来、自動車、石油化学、エレクトロニクス、消費者製品およびその他の輸出産業のクラスターを形成し、発展させる上で有益な役割を果たしてきました。フォード、GM、いすゞ、マツダ、MG、BYD、スズキなどの国際的な自動車メーカーが世界のトップOEM部品サプライヤー32社を含む自動車部品メーカーと共に、タイの製造拠点としてWHA工業団地を選択しています。

WHAグループは1988年の設立以来、自動車、石油化学、エレクトロニクス、消費者製品およびその他の輸出産業のクラスターを形成し、発展させる上で有益な役割を果たしてきました。フォード、GM、いすゞ、マツダ、MG、BYD、スズキなどの国際的な自動車メーカーが世界のトップOEM部品サプライヤー32社を含む自動車部品メーカーと共に、タイの製造拠点としてWHA工業団地を選択しています。

WHAグループの評判のもう一つの強力な要素は、環境の保護・保全努力です。WHAグループはタイにおける会社設立当初から、自社の工業団地が持続可能な形で環境と調和して共存しなければならぬと常に考えてきました。このため、弊社はすべてのインフラストラクチャーの設計に注意を払い、自らが運営するすべての公共インフラサービスが環境に及ぼす

WHAグループは自社の幅広い経験を生かし、タイの11カ所の工業団地と同じモデルとノウハウをWHA インダストリアルゾーン1に採用し、同じ環境基準を適用する態勢を整えています。弊社は、環境を守るためには、特に開発の最も初期の段階において環境保護プログラムの実施が必要不可欠であることを確信しています。

WHAグループは自社の幅広い経験を生かし、タイの11カ所の工業団地と同じモデルとノウハウをWHA インダストリアルゾーン1に採用し、同じ環境基準を適用する態勢を整えています。弊社は、環境を守るためには、特に開発の最も初期の段階において環境保護プログラムの実施が必要不可欠であることを確信しています。

WHAグループは自社の幅広い経験を生かし、タイの11カ所の工業団地と同じモデルとノウハウをWHA インダストリアルゾーン1に採用し、同じ環境基準を適用する態勢を整えています。弊社は、環境を守るためには、特に開発の最も初期の段階において環境保護プログラムの実施が必要不可欠であることを確信しています。

WHAグループは自社の幅広い経験を生かし、タイの11カ所の工業団地と同じモデルとノウハウをWHA インダストリアルゾーン1に採用し、同じ環境基準を適用する態勢を整えています。弊社は、環境を守るためには、特に開発の最も初期の段階において環境保護プログラムの実施が必要不可欠であることを確信しています。

WHAグループは1988年の設立以来、自動車、石油化学、エレクトロニクス、消費者製品およびその他の輸出産業のクラスターを形成し、発展させる上で有益な役割を果たしてきました。フォード、GM、いすゞ、マツダ、MG、BYD、スズキなどの国際的な自動車メーカーが世界のトップOEM部品サプライヤー32社を含む自動車部品メーカーと共に、タイの製造拠点としてWHA工業団地を選択しています。

WHAグループは1988年の設立以来、自動車、石油化学、エレクトロニクス、消費者製品およびその他の輸出産業のクラスターを形成し、発展させる上で有益な役割を果たしてきました。フォード、GM、いすゞ、マツダ、MG、BYD、スズキなどの国際的な自動車メーカーが世界のトップOEM部品サプライヤー32社を含む自動車部品メーカーと共に、タイの製造拠点としてWHA工業団地を選択しています。

WHAグループは1988年の設立以来、自動車、石油化学、エレクトロニクス、消費者製品およびその他の輸出産業のクラスターを形成し、発展させる上で有益な役割を果たしてきました。フォード、GM、いすゞ、マツダ、MG、BYD、スズキなどの国際的な自動車メーカーが世界のトップOEM部品サプライヤー32社を含む自動車部品メーカーと共に、タイの製造拠点としてWHA工業団地を選択しています。

WHAグループは1988年の設立以来、自動車、石油化学、エレクトロニクス、消費者製品およびその他の輸出産業のクラスターを形成し、発展させる上で有益な役割を果たしてきました。フォード、GM、いすゞ、マツダ、MG、BYD、スズキなどの国際的な自動車メーカーが世界のトップOEM部品サプライヤー32社を含む自動車部品メーカーと共に、タイの製造拠点としてWHA工業団地を選択しています。

WHAグループは1988年の設立以来、自動車、石油化学、エレクトロニクス、消費者製品およびその他の輸出産業のクラスターを形成し、発展させる上で有益な役割を果たしてきました。フォード、GM、いすゞ、マツダ、MG、BYD、スズキなどの国際的な自動車メーカーが世界のトップOEM部品サプライヤー32社を含む自動車部品メーカーと共に、タイの製造拠点としてWHA工業団地を選択しています。

スマート・テクノロジーによりWHAグループが新たな高みへと発展

スマート・テクノロジーの到来により、デジタル変革の波が押し寄せ、産業界に影響を及ぼしつつあります。世界中の産業が相互に接続され、オートメーションと情報システムへの依存度が高まっているため、タイのWHAはこれらのスマート・テクノロジーを採用することにより、すでにデジタル変革を開始して、WHAグループの4つのビジネスハブの顧客企業に一段と優れたサービスを確実に提供し、ビジネスの促進を実現しています。

工業用インフラサービスと電力、およびデジタル・プラットフォームの開発を専門とするトップ企業であるWHAグループは、スマート・ロジスティクス、倉庫と建物、倉庫管理、オートメーション・ストレージ、モノのインターネット、およびビッグデータの自動化に適合させるために、物流事業の設計と準備をすでに進めています。

工業団地の維持管理に関して、効率、信頼性、セキュリティ、および安全性を常に確保するためには、様々なスマート機能が採用されつつあります。セキュリティはあらゆる企業にとって重要な要件であるため、WHAでは年中無休で監視を行う集中監視・制御などのスマート・エコシステムに多額の投資を行っています。スマート照明とスマート・エネルギーに加え、車両と訪問者の常時トラッキング、交通管理、および土地調査のためのドローン利用が実施されています。スマート・エコ工業団地

モノのインターネット（IoT）と自動化されたソリューションにより、工業用地の利用、工業用水の生産プロセス、屋上ソーラーパネル、オンライン監視・管理システム、スマート送電網、廃水処理

WHAグループは現在、日本とタイからの最初の投資家を迎えているところです。これらの投資家はWHAの特別な投資奨励策とWHAの投資家サポートを活用できる事前作業はすでに完了しています。WHAグループの関連会社であるWHAUPエリートリテイアスアンドパワー社（WHAUP）が水道と廃水関連の公共インフラを開発中で、作業は予定通り進んでいます。多数の見込み顧客も現れているため、WHA インダストリアルゾーン1はゲアンは有望な将来に向かって順調に進みつつあるといえます。



デビッド・ナードン WHAグループ取締役会副会長兼工業・国際担当グループ・エグゼクティブ

お問い合わせ先
ゲアンのWHA マネジメント サービスズベトナム株式会社の支社
所在地: 32nd Floor, Muong Thanh Song Lam Hotel, 13 Quang Trung Street, Vinh City, Nghe An Province, Vietnam
ピン事務所 TEL: (+84) 238 222 9999 FAX: (+84) 238 222 9998
ハノイ事務所 TEL: (+84) 243 574 6999
電子メール: invest@whavietnam.com
ホームページ: www.whavietnam.com

WHAグループの評判のもう一つの強力な要素は、環境の保護・保全努力です。WHAグループはタイにおける会社設立当初から、自社の工業団地が持続可能な形で環境と調和して共存しなければならぬと常に考えてきました。このため、弊社はすべてのインフラストラクチャーの設計に注意を払い、自らが運営するすべての公共インフラサービスが環境に及ぼす

WHAグループは自社の幅広い経験を生かし、タイの11カ所の工業団地と同じモデルとノウハウをWHA インダストリアルゾーン1に採用し、同じ環境基準を適用する態勢を整えています。弊社は、環境を守るためには、特に開発の最も初期の段階において環境保護プログラムの実施が必要不可欠であることを確信しています。

WHAグループは自社の幅広い経験を生かし、タイの11カ所の工業団地と同じモデルとノウハウをWHA インダストリアルゾーン1に採用し、同じ環境基準を適用する態勢を整えています。弊社は、環境を守るためには、特に開発の最も初期の段階において環境保護プログラムの実施が必要不可欠であることを確信しています。

WHAグループは自社の幅広い経験を生かし、タイの11カ所の工業団地と同じモデルとノウハウをWHA インダストリアルゾーン1に採用し、同じ環境基準を適用する態勢を整えています。弊社は、環境を守るためには、特に開発の最も初期の段階において環境保護プログラムの実施が必要不可欠であることを確信しています。

WHAグループは自社の幅広い経験を生かし、タイの11カ所の工業団地と同じモデルとノウハウをWHA インダストリアルゾーン1に採用し、同じ環境基準を適用する態勢を整えています。弊社は、環境を守るためには、特に開発の最も初期の段階において環境保護プログラムの実施が必要不可欠であることを確信しています。

法人税 (CIT)	輸入税	投資家への支援
・特別税率: 10%、 15年間 - CIT 免税、当初の4年間 - その後、9年間 50%減税	・固定資産を形成する機械・装置は免税 ・国内で生産できない材料と部品は5年間免税	・ドン・ナム経済区委員会によるワンストップサービス

は緩衝地帯としての役割を果たす緑地の確保に努められています。水道システムは安全でコスト効率と信頼性が高く、水路網は洪水のリスクをなくすよう設計されています。廃水はまず溜池に置かれ、その後処理されます。タイのいくつかの工業団地と同様に、WHAはWHA インダストリアルゾーン1にゲアンに人工湿地システムを導入しています。このシステムは化学物質をまったく使用せず、環境に優しい廃水処理ソリューションです。

WHAグループは工業団地開発における確かな経験を生かし、タイと同様にゲアンで世界水準の工業区開発を成功させます。弊社はすべての入居企業の要件に対応し、ベトナムおよび東南アジア地域の経済成長に貢献します。WHA インダストリアルゾーン1はゲアンの魅力と競争力を一段と高めるには、ゲアン省とベトナム政府当局が道路、海港および空港施設のインフラストラクチャーと接続性の改善に引き続き注力する必要があります。特にハノイとビン市を結ぶ自動車道路の

WHAグループは現在、日本とタイからの最初の投資家を迎えているところです。これらの投資家はWHAの特別な投資奨励策とWHAの投資家サポートを活用できる事前作業はすでに完了しています。WHAグループの関連会社であるWHAUPエリートリテイアスアンドパワー社（WHAUP）が水道と廃水関連の公共インフラを開発中で、作業は予定通り進んでいます。多数の見込み顧客も現れているため、WHA インダストリアルゾーン1はゲアンは有望な将来に向かって順調に進みつつあるといえます。

ヘマラートで更なる飛躍を目指す企業

Matsui Eastern (Thailand) Co.,Ltd.

自動車等キーロック及びスイッチの請負組立



顧客の期待上回る高品質・高水準品を提供
職業訓練制度で高卒者を採用。地域貢献も

マツイ・イースタン(タイ)は、愛知県豊橋市に本社を置くキーロックやスイッチなど自動車部品量産請負製造業「マツイ株式会社」のタイ法人。2003年に設立。7・4ライ(1ライ=1600m)の土地に建つ、延床面積約1000万m²の工場で操業を行っています。手掛けるのは、主に自動車の運転席回りにある各種スイッチ類やミラー、パワーウィンドーなどの量産部品。必要な部品・部材を主にタイ国内で調達し、アッセンブリした上で部品メーカーに納入しています。請負量産を得意としていますが、大ロットから少量まで顧客ニーズには柔軟に対応することができ、取扱品目も樹脂や基板など多種多彩で、さまざまな製品に当社の技術が活かされています。行動指針は「すぐやる・かならずやる・できるまでやる」。高い技術力を背景とした、提案型の積極的な営業が取引先企業との信頼の礎です。開発する技術、製品化する技術、量産する技術の3つを「マツイ魂」と呼んでいます。

製造業の集積するタイで、部品部材の現地調達はほぼ問題がなくなりました。求められているのは、玉石混合、数多ある部品部材点数の中から最適なものを、価値の向上に欠かせないものを見つけて出し、組み立てる確かな眼と技術。日本で半世紀を超える当社の蓄積したノウハウと伝統が、これを可能としています。顧客の期待を上回る高品質、高水準、短納期。必要とされる所以です。さまざまな産業が進出し、労働者の賃金が上昇した結果、タイのモノづくりは大きな変革の時を迎えています。こうした時代のうねりにも当社は果敢に挑戦を続けています。その一つとして、まず取り組んでいるのが部品の内製化。8年前の大洪水をきっかけに導入した3台の成形機はその一例です。内製化の推進は生産リスクの分散にも貢献します。取引先への納品を止めないためにも、こうした取り組みを続けていく考えです。

松井宏益会長は、カンボジアやラオスなど周辺国を合わせた「タイ・プラスワン」の必要性も痛感しています。賃金が上昇した結果起こるコスト競争。だからといって製品への安易な転嫁はできません。「安かろう、悪かろう」にも絶対に対応はできません。その一方で、市場が成熟しつつあるタイでは、新たな市場やビジネス環境も育ってきています。周辺国との棲み分けを模索するなどして、解決策の構築を進めたいとしています。

5年前からは、地域貢献を目的とした職業訓練制度も導入を始めました。今なお所得格差の残る東北部イサーン地方から、経済的な理由などで進学を断念した高校卒業生(満18歳)を訓練生として採用。2年間の制限付きで雇用する仕組みです。この間の賃金の支給はもちろんのこと、住み込みのための寄宿舎も提供します。

工場では一般のワーカーとともに働き、製造業の基礎と社会人としての素養を積んでもらいます。同時に、日系企業ならではのカイゼン(改善)や整理整頓などの5Sについても理解を深めます。こうして日本と同じ製造ラインで2年間働き、スキルを磨いた後は、各自が希望する新しい職場へ。この制度を活用して、これまでに約40人の若者が巣立っていきました。

当社工場が入居するイースタンシーボード工業団地(ラヨン)は、チョンブリー県との県境に近い内陸部にあります。洪水の心配とは無縁で、供給水道や電力にも何ら問題はありません。高規格道路などの交通網も整備されており、日本人が多く居住するシラチャーンにも車で40分と各地へのアクセスも抜群です。近隣にはワーカーも多く居住しており、これまで採用に困ったことはありません。日系などの取引先も周辺に集積しており、この上ない好立地と言えましょう。

工業団地を管理するWHA社のスタッフは、いつも明るくフレンドリー。「困ったことはありませんか」と定期的な巡回サービスも行っています。当社をはじめ入居企業からの連絡や問い合わせへのレスポンスも早く、困った時に頼ることのできる力強い味方です。松井会長も「良いご縁に恵まれることができました」と話しています。マツイ・イースタン(タイ)のこれからの飛躍が楽しみです。

職場では一般のワーカーとともに働き、製造業の基礎と社会人としての素養を積んでもらいます。同時に、日系企業ならではのカイゼン(改善)や整理整頓などの5Sについても理解を深めます。こうして日本と同じ製造ラインで2年間働き、スキルを磨いた後は、各自が希望する新しい職場へ。この制度を活用して、これまでに約40人の若者が巣立っていきました。

自動車産業は過去40年間にわたってタイの経済発展の主な推進力となってきました。昨年、自動車輸出はタイのGDPの6・5%に相当する1兆8000億以上の収益をもたらしました。しかし、世界の自動車産業は先進技術、インフラストラクチャーの開発と消費者からの要求により、重大な変化に直面しています。「インドナストリー4・0」政策によって生産性の向上、デザインと創造の促進、新たなイノベーション開発のための産業用ロボットとオートメーションの採用が推進されています。その目的は業界内の既存の自動車メーカーのみならず、デジタル時代における無制限の競争を可能にするデジタルタイプ技術の利用に熱心な、他の業界からの新規参入企業を支援してタイの競争力を最大化することです。

世界的な大手自動車メーカーであるダイムラー社は新世代の自動車である4つのカテゴリに分類しています。1.電気自動車2.自動運転車3.コネクテッドカー(IoTを使用)4.シェアードサービス。これは先進的なイノベーションとスマート・テクノロジーを探し求める、自動車産業における世界的なトレンドを表しています。このイノベーションとテクノロジーにはクリーンエネルギー、電気部品、通信・制御用デジタル機器のほか、AIと高度なアルゴリズムの利用が含まれます。

東部経済回廊(EEC)の開発に即して、タイ政府は投資奨励のターゲット産業に次世代自動車産業を含めました。EECは現在、タイと東南アジア地域における主要な生産ハブとなっています。この決定が行われた目的は、自動車利用の世界的なトレンドに即して、タイで現在も生産されている内燃エンジンの使用を減らすことにあります。また、これによりアセンブリと製造ラインの効率向上に役立つ産業用ロボットなど、他の自動車関連産業や自動車に利用される電子システムに焦点を当てたスマート・エレクトロニクス産業、およびインターネット接続を拡大して付加価値の高い新世代の自動車を生産するデジタル産業の発展も促進されます。

さらに粉塵問題のため、政府は電気自動車(EV)の利用を推進する方向に進みます。従って、EVを推進する計画はコネクテッドカーと自動運転車の開発を進めるためのプラットフォームとしての役割を果たします。そして、これにより車内アプリ開発会社などのタイの新興企業がエンターテインメントや運転中の快適さを高めるアプリケーションを開発したり、コネクテッド・デバイスのメーカーとサプライヤーが新世代の自動車産業のパリユーチェーンに参加したりする機会がもたらされます。

次世代自動車

ジャリール・ボーン・ジャルコンサクン
会長兼グループCEO
WHAコーポレーション株式会社



(1ページから続く)
WHAUPのウィサートCEOは、ベトナムで人気の高い投資先の中で、ゲアンは交通網との接続が容易なため、ハノイとホーチミン市に次いで大きな可能性を持っていると指摘しました。ゲアンはハイウェイ1A、およびハノイとホーチミンを結ぶ鉄道に隣接しており、ヴァン国際空港からわずか10キロメートルしか離れていません。またCuolo深海港と現在建設中の3つの港も近距離にあります。さらに、ゲアンには特別経済ゾーンがあり、エレクトロニクス、繊維、食品、物流、FMCG、自動車部品などの分野への投資では政府の全面的なサポートを受けることができます。

ゲアン省ではこれらの前向きな見通しに基づいて家庭用と産業用の両方の水道需要が高まっています。この需要拡大はベトナム政府の奨励策によって促進されたベトナムの経済成長に即したものです。従って、Cualo社への投資はWHAUPにとって海外における公共インフラサービス事業からの利益という形でメリットをもたらします。



ヘマラートニュースダイジェスト

Industrial Development

航空宇宙業界の代表団が WHA ESIE 1とESIE (ラヨン) を訪問

海外の航空・宇宙産業の代表団が先日WHAイースタン・シーボード工業団地1 (WHA ESIE 1) とイースタン・シーボード工業団地 (ラヨン) を訪問し、WHAコーポレーション株式会社のシヤバス・チャタチャイロート法人マーケティング担当取締役 (中央) による歓迎を受けました。一行は航空宇宙分野のサプライヤー企業、オマダ・インターナショナル (タイランド) 株式会社からなる最先端の施設の総合的な見学などを行いました。同代表団は航空宇宙製造部門の堅固な成長ぶりを視察し、タイ国内の投資機会を探ることを目的としてタイを訪れました。



日本からの代表団がWHAインダストリアル・ディベロップメント社の EEC自動車産業クラスターを訪問

日本の財団法人国際情報協働センター (CICC) の代表団が先日WHAインダストリアル・ディベロップメント株式会社を訪ね、ラッタ・ロジャナウィライウッド工業団地顧客開発担当副社長 (前列右から2人目) による歓迎を受けました。一行はWHAの工業団地運営の概要について説明を受けた後、タイの自動車産業クラスターを構成しているイースタン・シーボード工業団地 (ラヨン) とWHAイースタン・シーボード工業団地1の見学を行いました。



福岡県の経済界代表団が WHAインダストリアル・ディベロップメント社を訪問

日本の福岡県の経済界代表団が先日WHAインダストリアル・ディベロップメント株式会社を訪ね、ラッタ・ロジャナウィライウッド工業団地顧客開発担当副社長 (前列右から2人目) による歓迎を受けました。同代表団は工業団地を視察し、タイのEECにおける投資機会を探るという任務を負ってタイを訪れました。一行はWHAイースタン・シーボード工業団地1の賃貸用工場の詳細な見学を行いました。



マヒドン大学の代表団が WHAインダストリアル・ディベロップメント社のESIE (ラヨン) とWHA ESIE 1を訪問

マヒドン大学公衆衛生学部の教職員からなる代表団がWHAの工業団地を訪れ、WHAインダストリアル・ディベロップメント社のウィット・ジラティカーンサクン工業・国際担当最高執行責任者 (中央) と、WHAコーポレーションのシヤバス・チャタチャイロート法人マーケティング担当取締役 (前列右から4人目) による歓迎を受けました。一行はイースタン・シーボード工業団地 (ラヨン) とWHAイースタン・シーボード工業団地1の世界水準の製造施設を訪れ、WHA工業団地の運営方法を見学しました。この訪問で得られた情報は、EEC地域における教育研究と学術的サービスのカリキュラム開発に利用されます。



宮崎県の経済界代表団が WHAインダストリアル・ディベロップメント社を訪問

日本の宮崎県の経済界代表団が先日WHAインダストリアル・ディベロップメント株式会社を訪ね、ラッタ・ロジャナウィライウッド工業団地顧客開発担当副社長 (前列右から2人目) による歓迎を受けました。同代表団は東部経済回廊 (EEC) における投資の可能性について調査し、日本とタイとのさらなる協力の機会について話し合うために来タイしました。一行はイースタン・シーボード工業団地 (ラヨン) とWHAイースタン・シーボード工業団地1をくまなく回り、タイ国内と海外の顧客企業が利用できるWHAの世界水準の施設とエンドツーエンドのインフラストラクチャーを見学しました。



バングラデシュの投資視察団がWHAの工業団地を訪問

バングラデシュ投資開発庁 (BIDA) の職員が先日、WHAインダストリアル・ディベロップメント株式会社が開発したイースタン・シーボード工業団地 (ラヨン) とWHAイースタン・シーボード工業団地1を訪れました。一行はWHAインダストリアル・ディベロップメント社のスワッド・キッドソボン現場監督主任 (前列中央) による歓迎を受けました。同視察団は日本国際協力機構 (JICA) が支援する「バングラデシュにおける投資促進および産業競争力強化」協力プロジェクトの一環として、様々な業種の顧客に対応するために、WHAの工業団地運営の概略説明を受けました。また、世界水準の賃貸用施設と製造工場の現場見学も行いました。この訪問は、タイとバングラデシュの結び付きを強め、経済と投資での協力を促進することを目的としたものです。



オハイオ州とペンシルバニア州の経済界代表団が イースタン・シーボード工業団地 (ラヨン) と WHAイースタン・シーボード工業団地1を訪問

Ohio Small Business Development Center (SBDC)、Northwest Pennsylvania Regional Planning and Development Commission、およびColumbiana County Commissionの経済界代表団がWHAの工業団地を訪問し、WHAインダストリアル・ディベロップメント株式会社のラッタ・ロジャナウィライウッド工業団地顧客開発担当副社長 (左から2人目) による歓迎を受けました。一行はイースタン・シーボード工業団地 (ラヨン) とWHAイースタン・シーボード工業団地1 (WHA ESIE 1) から成るタイの自動車産業クラスターの世界水準の施設をくまなく見学しました。また、高品質の製品を様々な業種の顧客に供給している米国企業、Ampac社と製造工場も訪れました。



オーストラリアの貿易使節団がWHAスマート・ウェアハウスを視察 WHAメガ・ロジスティクスセンターで

オーストラリア貿易・投資委員会 (Austrade) の委員と実業家の代表団が先日、WHAコーポレーション株式会社を訪ね、サムットプラカーンのWHAメガ・ロジスティクスにあるWHAスマート・ウェアハウスを視察しました。Austradeのステュアート・リース貿易・投資委員 (左端) に率いられた同代表団による今回の訪問はパートナーシップの構築が可能な分野を特定することを目的としたもので、「タイへのスマート・ロジスティクス&ウェアハウジング・ミッション」の一環です。



カスタマーニュース

TOTO (タイランド) 社が WHAサラブリ・インダストリアルランドで仏教行事を開催 第3工場建設工事の安全を祈願

日本の衛生陶器大手メーカーの子会社であるTOTO (タイランド) 社は先日、WHA サラブリ工業団地 (WHA SIL) で建設中のタイ第3工場のために仏教行事「メリットメイキング・セレモニー」を開催しました。この行事に出席した WHA インダストリアル・ディベロップメント株式会社のタニン・スプーンルアン工業団地開発・工業・国際担当副社長 (右側) は、TOTO (タイランド) 社と同社スタッフに恵みが与えられるよう祈りを捧げた後、同社のシマダ・タカヤス社長 (左側) に記念品を贈呈しました。



CSR

WHAグループがチョンブリ県の高齢者を対象に 無料インフルエンザ予防接種を実施

WHAグループは先日チョンブリ県の5つの地区を訪問し、400名の高齢者にインフルエンザの予防接種を行いました。WHAコーポレーション株式会社のシヤバス・チャタチャイロート法人マーケティング担当取締役は、特に雨季の最中に重い病気にかかるリスクを減らすために免疫機能を高めることの大切さについて地域住民に説明しました。寺院、学校やコミュニティセンターで実施されたこの活動は、人々の健康と幸福を促進することを目的としたもので、WHA工業団地周辺の地域住民に対する社会貢献の取り組みの一環です。



WHAグループが第9回教師向けアートキャンプを開催 児童の間に美術を愛する心を植え付けることが目的

WHAグループは先日、チョンブリ県とラヨン県で毎年恒例の教師向けアートキャンプを開催しました。同キャンプは今年で9回目となります。WHA工業団地周辺に位置する16の学校と幼稚園から合計38名の教師が特別な美術教育セッションに参加し、美術を通じて感情と創造性を表現しようという気持ちを児童に起こさせる方法を学びました。アートキャンプの閉会式ではWHAコーポレーション株式会社のシヤバス・チャタチャイロート法人マーケティング担当取締役 (3列目中央) が4日間のコースの修了者に祝辞を述べました。今年のコースは「水は命」 (Water is Life) をテーマとして実施されました。



10th WHAの工業団地

WHA

イースタン・シーボード工業団地

ロボット、航空、物流及び次世代自動車産業を
ターゲットとする東部経済回廊 (EEC) 域内投資奨励ゾーン

- 自動車・ハイテク・航空宇宙・消費財産業およびその他製造業にわたるロケーション
- レムチャパン深海港至近
- イースタン・シーボード工業団地 (ラヨン) および
WHAイースタン・シーボード工業団地1まで10km
- 国道344号線まで8km

WHA Industrial Development Plc.
T. 662 719 9555 www.wha-industrialestate.com
Email: marketing@wha-group.com